キャラクター名
鈴奈

プレイヤー名

シンドローム	ブラム＝ストーカー ハヌマーン	ワークス	何でも屋	カヴァー	高校生
オプショナル	キュマイラ	年齢	？？	性別	女
覚醒	生誕	衝動	自傷	初期侵食率	39 %
出自		経験		邂逅	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	2	1	0			3
感覚	3	0	0			3
精神	2	0	0			2
社会	1	0	0			1

HP	28
行動値	8
(非装備時)	8
戦闘移動	13
全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃			ＲＣ	1		交渉		
回避	1		知覚	1		意志	1		調達	1	
運転：			芸術：			知識： 学問		1	情報： 噂話	1	
運転：			芸術：			知識： 軍事		1	情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
スタニングバトン	白兵	3r+1		3		ガード2
『あかずきんの御使い』		0				援護の風4+ウィンドゥブレス1
『晩餐賛歌』		0				軍神の獣
『赫色の森』		0				子羊の歌

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
ペット　犬	
ウェポンケース（スタニングバトン）	
マッドサイエンティスト	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
業師	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
不死者の恩寵	2	5	クリン	至近	自身	自動	ー	
効果： Hpをlv＋2d＋肉体回復。戦闘以外c1回								
無限の血肉	1	4	オート	至近	自身	自動	リミ	
効果： 戦闘不能時、lv□で回復　s1								
子羊の歌	2	6+2	オート	視界	単体	自動	100	
効果： 対象のHpダメージ適応直前、肩代わりする。slv								
援護の風	4	2	オート	視界	単体	自動	ー	
効果： 対象の判定直前使用、D+lv								
ウィンドウブレス	2	2	オート	視界	単体	自動	リミ	
効果： 援護の風同時使用、達成値+lv×3								
軍神の守り	1	2	オート	至近	自身	自動	ー	
効果： ダメージロール直前、カバーリング								
冥府の棺	1							
効果：								
ハイブリ	1							
効果：								
血の兄弟	★		メジャ					
効果： 契約を行ったお互いの健康状態と位置を大体知ることが出来る								
かぐわしき鮮血	★		メジャ					
効果： 血の匂いをかぎ分け、個人、集団を特定できる（Rc）								
獣の匂い	★		メジャ					
効果： 獣の匂いを出して動物との交渉を有利にする。対象に一つ命令できる。								
蝙蝠の耳	★		メジャ					
効果： 10キロ先の針の音まで聞き分ける力								
真偽感知	★		メジャ					
効果： 声色から嘘を見抜く								

”33” ”血の頭巾”または”血の供物”このコードネームは白い髪が自らの血に染まりまるで赤い衣を被っているように見えた事から。

幕間出場キャラメモリー10点

極力労力を使わず、会話も積極的に行おうとしない。敬語が基本で、思ったことを辛辣な言葉を発することが多い。特に悪気はない。違和感は積極的に調べる。
自ら関わりに行くことは少ないが、頼まれ、それが労力に値しない場合や対価を得られれば行おうとする善性は持っている。だが、それ以上に自らの感じた正しさを優先する。その場合、正しさは自らよりも優先される。
好きなものは、ねつ、狼
嫌いなものは、つめたさ、痛み
得意な事は、諦めること、我慢
苦手な事は、求めること

幼いころFHの研究所で狼の因子を持つ子供たちを集められて強力な、制御出来戦力として運用できるジャームを生み出す事を目的とした研究は多くの被験者達を犠牲にした。
彼女は第3期実験体で、その中でも落ち着いた、良く言えば自分の生死に無頓着な子供だった。
だからこそ暴力などが振るわれても抵抗せず、無茶な実験にも適応し生き延びることが出来たのだろう。
だが多くの実験の末に痛覚が、味覚が、触覚がどんどん失われて行き自意識の薄い”肉人形”となりかけていた時、手が差し伸べられたそれが新たに補給された第5期実験体達の兄貴分だった。
兄貴分は今までの実験体の中でも非常に高い適性を持っており、研究者たちも彼を無為に失う事は勿体ないとその行為に干渉することは無かった。無駄に犯行意識を芽生えさせるのなら兎も角、実験体の日持ちを良くすることに関しては得でしかない。
いくら彼が彼女に声を掛けて、構い続けてもその在り方を変える事は無かった。
元より感じる感性が失われていたからだ。